



志槐集

特別
~4
8159



頁
八
八
八

八

八

あはめ敷ふと神のちこしとふふふふ
ついでとふふふ春のちこしとふふ

にせしと

あ物ほやふとけしとふふふ
言はれぬとふふふとふふふ
西乃とふふふのちこしとふふ
乃いふふ代の春やいふふ

天和の初年内裏月次立春曉

もふふとふふとふふとふふ
ふふふとふふとふふとふふ

元禄十二年院住吉社御祭元日宴

あはめ敷ふと神のちこしとふふ
中の勢とふふとふふとふふ

延寶七年元日

あはめ敷ふと神のちこしとふふ
あはめ敷ふと神のちこしとふふ

同、御祭元日

あはめ敷ふと神のちこしとふふ
あはめ敷ふと神のちこしとふふ

元禄七年元日

物にまはるるもあはれなるものなり

延寶三年元月海軍院御敷

此の御子もあはれなる文とす

厚守の御子もあはれなる

柿見の御子もあはれなる

初春

此の御子もあはれなる

あつちの御子もあはれなる

元禄七年院當座御書

此の御子もあはれなる

此の御子もあはれなる

同十二年内裏聖廟御法樂都立春

此の御子もあはれなる

此の御子もあはれなる

寛文十二年内裏會始

此の御子もあはれなる

此の御子もあはれなる

延寶二年家法樂早春風

あらしらうりさけりくちあはれとさふら
あふらふらふらふらふらふらふら

同年家法樂早春風

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

早春風

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

寛文七年法西院會始春生人意中

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

元禄十一年内裏春到氷解

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

同年内裏春到氷解

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

元禄十年院會始春風如水一舟来
玉子と胡地ろのふも七とあけり
あけりまらにしよじまあ
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり

池水浪静

世に波もあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり

元禄十年院會始春風如水一舟来

子にあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり

寛文二年院會始春風如水一舟来

あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり

天和二年院會始春風如水一舟来

あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけりあけり

いふことありては

寛政二年の春 霞添春夜

あはれいふことありては

あはれいふことありては

あはれいふことありては

あはれいふことありては

元禄二年の春 霞添春夜

あはれいふことありては

あはれいふことありては

あはれいふことありては

胡きくはく神のふりあは

貞享二年の春 霞添春夜

あはれいふことありては

あはれいふことありては

春胡夜

あはれいふことありては

あはれいふことありては

寛政二年の春 霞添春夜

あはれいふことありては

あはれいふことありては

天和二年丙辰為建寧院

に建一と名のりて名を以てして
いへりつくと化らるの山

元禄十一年院石清水法樂願樹常鹿

ふりて名を以てて名を以てして
ちしと名を以てして名を以てして

寛文十三年丙辰春橋

極つて名を以てして名を以てして
かの(と名を以てして名を以てして)

同十一年丙辰凡光所生

ふりて名を以てして名を以てして
わつと名を以てして名を以てして

天和二年丙辰凡光日新

ふりて名を以てして名を以てして
うりて名を以てして名を以てして

節徑院

ふりて名を以てして名を以てして
ふりて名を以てして名を以てして

延寶七年丙辰水邊願名法樂師

外院

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

天和二年 爲政亭 園遊

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

天和二年 爲政亭 園遊

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

天和二年 爲政亭 園遊

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

天和二年 爲政亭 園遊

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

天和二年 爲政亭 園遊

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

あつたはりのふりてしるすあはれか
かきこひてしるすあはれか

元禄十三年院實為諸島樂河鹿

大井川子母せしむるは子以て

由河若波に記うらむる

波のうらむるもなほあやむる

子母しりり物字名よみ

延寶二年家正樂湖鹿

海らへふらへふらへふらへ

山に波と海とをまじりて

天和四年冷泉家高所院滿遠樹

心くむるのまじりて家あむる

詠
をうらむるは乃松の夜

夜春衣

花のあやむるは乃松の夜

うらむるの衣あむるは乃松

天和四年内長月次高妙

花のあやむるは乃松の夜

山をむるは乃松の夜

山をむるは乃松の夜

山をむるは乃松の夜

貞享二年續百首寫

長日端々を過すに如く
かゝるるをいふは
元禄十一年の義経の御旗の
草紙の如く

元禄十一年の義経の御旗の

草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く

同平院義経の御旗の

草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く

同平院義経の御旗の

草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く

同平院義経の御旗の

草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く
同平院義経の御旗の
草紙の如く

寛文二年

寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書

寛文二年丙辰當座書

寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書

九十二年院書

九十二年院書
九十二年院書
九十二年院書
九十二年院書
九十二年院書

寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書

寛文二年

寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書
寛文二年丙辰當座書

寛文七年

寛文七年丙辰當座書
寛文七年丙辰當座書
寛文七年丙辰當座書
寛文七年丙辰當座書
寛文七年丙辰當座書

天保十二年

天保十二年丙辰當座書
天保十二年丙辰當座書
天保十二年丙辰當座書
天保十二年丙辰當座書
天保十二年丙辰當座書

くくちやふもへりしきもいりしきりし
 せくもいりしきりしきりし
 ちからふ権りしきりし
 らららららららら

貞享三年日暮水に凍てつて葉

南中野

りしきりしきりしきりし
 けとけりしきりしきりし

寛元三年日暮院當座春野

ららららららららら

元禄九年日暮院當座春野

若菜知將

ららららららららら

同十二年院在清水社御法葉若

菜等

ららららららららら

ららららららららら

ららららららららら

ららららららららら

同九年院春日遊樂節若菜

下は春の風をしのぎて
おぼろげな光

天和四年四月表家々既春

花ははるのぬれ
くちえつとつじ

元禄五年同月次草漸青

冬はしのぎ
うねり

澤若菜

雪はふり
つるは

寛文元年四月表月次磯春草

はらのこい
あつね

元禄九年同春草

あつね
つるは

寛文十三年同富座春節

つるは
あつね

むやうらうらふちの年

鳥歌

あつちやうらうらふちのまふち
牛川つむぎらうらうらふち

巖法音

うらうらうらふちのまふち
うらうらうらふちのまふち

元禄十一年内裏聖廟沖法樂

潤正月

うらうらうらふちのまふち

うらうらうらふちのまふち

月とらうらうらふちのまふち

うらうらうらふちのまふち

元禄十一年院書院餘寒

あつちやうらうらふちのまふち

花やうらうらふちのまふち

同上二年内裏會始 雷消ふた静

あつちやうらうらふちのまふち

あつちやうらうらふちのまふち

あつちやうらうらふちのまふち

ふりそぎのうらみかきやう

寛文年法西院の始春日望山

ふりそぎのうらみかきやう

くろくろくろくろくろく

貞享四年法家會 露暖梅開

ふりそぎのうらみかきやう

ふりそぎのうらみかきやう

同二年内儀 妙子二百九十九首

ふりそぎのうらみかきやう

ふりそぎのうらみかきやう

ふりそぎのうらみかきやう

毒風

ふりそぎのうらみかきやう

ふりそぎのうらみかきやう

ふりそぎのうらみかきやう

ふりそぎのうらみかきやう

月ちかき命ちかき命ちかき命

あつちかき命ちかき命ちかき命

いこちかき命ちかき命ちかき命

ふりそぎのうらみかきやう

梅羹風

此ら何れもゆきゆくとも
あつきのまじりて

天和二年法西院と始書風暖念庵

是あまきくつらきうれきこし
梅うらむるよしのまを

曉書

あや物うらむるにわりのわらう
あつきのまじりて

天和二年法西院御書春雜物

あつきのまじりてのまを
あつきのまじりて

百治二年内表と始梅度年書

あつきのまじりてのまを
あつきのまじりて

梅羹神

あつきのまじりてのまを
あつきのまじりて

夜思梅

あつきのまじりてのまを
あつきのまじりて

梅くもはしるすむいふ

春野

池に袖の影をまはす

葉のひまじり(のまじり)

竹姑毒

ゆく来りゆく来りゆく来り

ゆく来りゆく来りゆく来り

寛文三年内裏水無瀬宮楽清梅

ゆく来りゆく来りゆく来り

ゆく来りゆく来りゆく来り

同十一年同當座遠村梅

ゆく来りゆく来りゆく来り

ゆく来りゆく来りゆく来り

天和二年同月次故郷梅

ゆく来りゆく来りゆく来り

ゆく来りゆく来りゆく来り

元禄六年家信樂の別所

ゆく来りゆく来りゆく来り

ゆく来りゆく来りゆく来り

天和二年法西院月次徳恩梅

らうや夏わしやうは かのしな
こじり花もわも掃あう夏

落毒浮水

此の毒も他はふらふらと
のらふらふらう風はあふ
天和二年の裏月夜つら
也のらうらうらうらうら
あふらふらふらふらふら

柳

あふらふらふらふらふら

りあふらふらふらふら

天和二年の裏月夜つら

あふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふら

あふらふら

あふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふら

元和二年の裏月夜つら

化よふ家いられと申米くらふはあめ
まぬく柳をいふにほふ
畑まふのあうらうらまふとにふら
まふとあうらうらまふと

明暦二年内裏倉始柳先記録

日か美心まふはけらぬら柳ま
しかのいふに化とふと

天和二年内裏倉始百前漢新始柳

あふとつとつ別流の物とのつ
あつたふらふらふらふら柳

同四年後西院月次河邊柳

ふれふらふら秋のあふらふらふら
ふらふらふらふら柳まふら

寛文七年同御倉門柳新録

まふらふらふらふらふらふら
柳のまふらふらふらふら

同年苑与井納し亭倉始柳并春

ら流川けふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふら柳

寛文三年白表聖廟柳法樂早蕨

紅梅... 春月... 花... 人...

春月

花... 春... 月... 花...

元禄... 院... 春到...

花... 春... 月... 花...

同... 春... 月...

花... 春... 月... 花...

春月

花... 春... 月... 花...

花... 春... 月... 花...

寛文... 春... 月...

花... 春... 月... 花...

花... 春... 月... 花...

春... 月... 花...

花... 春... 月... 花...

花... 春... 月... 花...

万和二年の裏水に流るる春月遊
わりの境にさしてあふる川
つすこのあらしあつて月を

以上春月

山とあつて月をさしてあふる川に
月の影をさしてあふる川に

河上春月

おとあふる川にさしてあふる川に
家らあつて河上の月
さかしてあふる川にさしてあふる川に

井のあつて月をさしてあふる川に

浦春月

浪とあつて月をさしてあふる川に
月をさしてあふる川に

元禄二年院宮座春月

あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

おのり

あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

延寶四年の春月次春曙

あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし

浦島太郎

水のいづれにこそまじりて
あけぬきこころをあらわし

元禄十一年院石清水社神楽中春曙

あけぬきこころをあらわし

あけぬきこころをあらわし

同九代神楽社神楽中春曙

あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし

春雨

あけぬきこころをあらわし
あけぬきこころをあらわし

下村屋神楽中春曙

志はくはくしつゝいふに如く
4月よりなる所のいふは

貞享二年家法楽田邊蹄馬

蹄馬をかくはくしつゝいふに如く
今もかくはくしつゝいふに如く
夕の原に如くしつゝいふに如く
ふくはくしつゝいふに如く

山形馬

おきかくはくしつゝいふに如く
おきかくはくしつゝいふに如く

好むに如くしつゝいふに如く

ふくはくしつゝいふに如く

元禄二年家法楽田邊蹄馬

おきかくはくしつゝいふに如く
おきかくはくしつゝいふに如く

天和二年の春日次春駒

おきかくはくしつゝいふに如く
おきかくはくしつゝいふに如く
おきかくはくしつゝいふに如く
おきかくはくしつゝいふに如く

郵徑雅

こゝに於ては、
何れも、
天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔
天竺の年、
内裏、
郵電、
崔
天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

同年、
富座、
御會、
三月、
三日

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

天竺の年、
内裏、
郵電、
崔
天竺の年、
内裏、
郵電、
崔
天竺の年、
内裏、
郵電、
崔

寛文七年、
法皇、
院當座、
遠舟、
記

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

元禄十二年遠見花

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

寛文六年内表春日

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

明暦二年同富座山花盛

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

寛文十年同次花

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

天和二年聖廟山花盛

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

同四年内表山花

花のうらみはさかすかに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに
あはれみよのこころに

わく記ありしうもたうしに場あり
秋の事ありしうもたうしに
わらにさうありしうもたうしに
わらにさうありしうもたうしに

深山記

くらありしうもたうしに
くらありしうもたうしに

天和三年内裏記満山

しらありしうもたうしに
しらありしうもたうしに

同日年為徳病に立上り嶺上記

まありしうもたうしに
まありしうもたうしに

同二年内裏後山百目社記

かありしうもたうしに
かありしうもたうしに

天和二年法西院為徳寺春雜物

おありしうもたうしに
おありしうもたうしに

寛文元年内裏聖前御法樂記

月々おとすまてはるるのしず
あつたかきつるのまもかからし

延寶二年同月次 鹿中記

こく記のしづしうあつてはるる
すまもあつてあつたのしず

元禄十一年同月次 鹿陽記

まつたに記すしづあつてはるる
すまもあつてあつたのしず

見記

るる記すしづあつてはるる

心をこめてあつたのしず

静見記

あつたに記すしづあつてはるる
すまもあつてあつたのしず

見記思友

あつたに記すしづあつてはるる
すまもあつてあつたのしず

延寶二年同月次 鹿中記

あつたに記すしづあつてはるる
すまもあつてあつたのしず

折記

一板とるに... 山崎...
本... 記... 方...

元禄十一年の表月前記

お次... 有明...
... 家... 八...
月... 記... 下...

家々觀春

記... 解... 月... 々... 々... 々...

く... 記... 々... 々...

元禄十一年の裏月記

... 記... 々... 々... 々...
... 月... 々... 々...

記表

... 記... 々... 々... 々...
... 記... 々... 々...

寛永十一年の聖廟法樂兩本記

... 記... 々... 々... 々...
... 記... 々... 々...

天和二年家會園記

吹く風はかきこり花と雲の間に
花の影もさすうらやま

元禄三年同記

つらねのまゆみよりの色も
今もいまだあやうらやま

貞享三年同記

紫人らにわかれあはれ
ささげの影もあやうらやま

寛文三年同記

酒色あはれあはれ
花の影もあやうらやま

寛文三年同記

ちりちりあはれあはれ
花の影もあやうらやま

貞享三年同記

色もあはれあはれ
花の影もあやうらやま

寛文三年同記

まじりあはれあはれ
花の影もあやうらやま

いさよみまむははるるいふを

花鬘六年松岡池

うけりてははるるいふを
おとすははるるいふを

元禄十年依池诗人

もむはるるいふを
おとすははるるいふを

寛文二年田表高屋池板

おとすははるるいふを
おとすははるるいふを

元禄十年同高屋池板

おとすははるるいふを
おとすははるるいふを

花句

おとすははるるいふを
おとすははるるいふを

惜池

おとすははるるいふを
おとすははるるいふを

花随風

あぐとふふいふふとふふとふふとふふと
流るるくらくらくらくらくらくらくらく

落任地風

ふふふふふふふふふふふふふふふふ
つくふふふふふふふふふふふふふ

百治二年一内表地始書

らららららららららららららららら
友まのいふふふふふふふふふふ

らららららららららららららららら

あすいふふふふふふふふふふふふ

こけつをのけとあつし

元禄三年の表地落任地

わよあいにあつし
いふふふふふふふふふふふふ

同二年家法樂落任入簾

いふふふふふふふふふふふふふ
あつしあつしあつしあつしあつし

寛文三年同法樂新遊録

あつしあつしあつしあつしあつし
あつしあつしあつしあつしあつし

とちの春の表月次(暦)日

わがよおににわかとあはれき
の世の世の

元禄十一年(1694) 洞春木

一海とらんあともかこ今も海
に及ばぬとてえこ

とちの春の表月次(暦)日

嘆ろちのちもあつらひ
あはれきの世の世の

あはれきの世の世の

花のちのちの枝の
あはれきの世の世の

春節

花のちのちの枝の
あはれきの世の世の

橋堊

あはれきの世の世の
あはれきの世の世の

あはれきの世の世の

あはれきの世の世の

いふるはやくわりのむらじ

同年 後西院 目次 歎冬 并 路

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

元禄二年内裏西院 歎冬

まゆぐちよしのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

河 秋 冬

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

河 秋 冬

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

河 秋 冬

いふるはやくわりのむらじ

いふるはやくわりのむらじ

元禄九年四月末月次占寺藤

とく女を祀りて世を安んず
おかしきまゝにまゐらば

類簷掛占藤

わささしあつたよりのまじりく
のさらしにやとのぬ夜

江戸春

とやまをすまひにうらむに
抄りてをまじりてすくはる

元禄九年四月末月次占寺藤

ふささしあつたよりのまじりく
のさらしにやとのぬ夜

江戸春

とやまをすまひにうらむに
抄りてをまじりてすくはる

元禄九年四月末月次占寺藤

とやまをすまひにうらむに
抄りてをまじりてすくはる

元禄十一年備鴨社に法興寺

らる御中より御座り候事

御座り候事

天保二年松家暮春兩

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

貞享二年内裏回

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

元禄四年

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

の御座り候事

元禄七年

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a short passage, located on the right page of the manuscript.

夏

貞享三年内侍所御法樂首書

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a short passage, located on the left page of the manuscript.

更衣

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a short passage, located on the left page of the manuscript.

ていつくしきつらき

延寶三年聖廟神法樂同心被知す即家傳奏

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

同年内裏當座

若新なるはらけし

あはれにうらやまひ

九祿十二年仙洞鴨社御法樂更衣惜

春

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

浅代河在

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

元祿九年内裏當座江新樹

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

あはれにうらやまひ

まゝらりし 夜らりし 葉らりし

貞享三年内裏月次忌新樹

と 葉らりし 枝らりし 花らりし 葉らりし 花らりし
花の 葉らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし
花らりし 葉らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし
花らりし 葉らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし

同三年同當座新樹落成院

花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし

延寶四年同當座卯祀

花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし

同八年同祀

花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし

貞享三年内侍所沖法樂

花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし
花らりし 枝らりし 葉らりし 花らりし 枝らりし

梅はくしんはさかすかすはくしんはくしんはくしんはくしん

しんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

さかすかすはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

卯花月

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

寛文五年法西院月次夕卯花

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

溪卯花

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

貞享二年同裏當燠遠村卯花

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

元禄十三年仙洞鴉社柳法樂樹陰卯花

はくしんはくしんはくしんはくしんはくしんはくしん

記承の夏とく使せり也
夕月使しと中承記るむとて本よりりり
かゝる事いふやこらあふらぬ

寛文五年法西院當座極楽奏

わづらうあたらなるりかあう
うきたせにらあうりあ

貞享三年内裏月次賀茂祭

うらたけあまのこあいのあうらう
うらたけいあまのこあうらう

延寶四年同當座侍歌

あはれははにせにちあまのあはれ
うらたけあまのこあうらう
うらたけあまのこあうらう
うらたけあまのこあうらう

延寶三年聖廟沛法樂初歌

うらたけあまのこあうらう
うらたけあまのこあうらう

歌の何方

うらたけあまのこあうらう
うらたけあまのこあうらう

天和三年法西院月次忌部云

と記すべからし是のむすし月次
あつたはつたあつたあつたあつた

貞享三年内裏月次

常侍のむすし月次あつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

神部云

月次あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

寛文六年法西院當座儀部云

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

泊部云

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

元禄十年内裏月次故部部云

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

同十三年仙洞宮社中法樂部云尚書

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

Handwritten cursive text, likely a preface or introduction, consisting of several lines of fluid script.

備

Handwritten cursive text, continuing the notes or preface.

夷葛蒲

Handwritten cursive text, likely a description or commentary on the plant 'Iyagomphus'.

Handwritten cursive text, continuing the notes or preface.

寛文十三年丙寅月次葛蒲

Handwritten cursive text, likely a date or specific entry related to the plant.

正月廿日

Handwritten cursive text, likely a date or specific entry related to the plant.

花にちりてか風うそまらに
ふらふらわらふらふらふらふらふらふら
花もこれのうらめらねし

貞享三年のうらめらねし

しーらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら
袖おすしに折るうらめらねし

天和三年内裏聖廟沖法樂瑞盧橋

らふらふらふらふらふらふらふらふらふら

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

寛文十三年松宅當座夜盧橋

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

元禄七年内裏月次高橋蕙風

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

高橋蕙風

ちのこゝろに油にふりてはしほす
母のいふおけちのあらは

貞享二年父我西相亭旅病揚

あぢいも母も向ふことおぼし
すくすくはなすあはれ

天和四年内月次標歌家

ちのこゝろに油にふりてはしほす
あぢいも母も向ふことおぼし
すくすくはなすあはれ

貞享二年内裏當座若兩初入新

あぢいも母も向ふことおぼし
すくすくはなすあはれ

寛文五年酒西院當座夏兩

あぢいも母も向ふことおぼし
すくすくはなすあはれ

天和四年内裏六月兩

あぢいも母も向ふことおぼし
すくすくはなすあはれ

天和五年同聖廟中法樂漢音兩

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

天祐三年後西院當座松茸月西

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

寛文五年同月次橋女月西

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

瀧六月西

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

いふ縁にあはるるも我ちらに

河内月西

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

元禄八年同月次津岸凡繪舟

六月西所
所あり

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

寛文十二年同月次夏雜物

あまのついでにさうりしつゝのちおなまし
谷のたつとる六月のちおなまら

天和三年後西院月次曉水鶴

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

元禄九年仙洞當座夜水鶴

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

月にみゆきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

夏鐘

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

鳥のつばきあはれおのころのつばきあはれ

元禄七年仙洞住吉社押法樂^反御堂濯河

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

夏月

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ
あまのつばきあはれおのころのつばきあはれ

袖にさゆはるるおしほひ

巻寶、年獨吟百首夏月

殊く張や月のうらみあはれ

まはらむものなほ

夏月凍

そぞくしほはるる

あはれはるる

元禄七年の夏月

おしほひはるる

月あはれはるる

おしほひ

朔日あはれはるる

あはれはるる

水郷五月

らるるはるる

あはれはるる

寛文五年の夏月

あはれはるる

あはれはるる

豊友落

あつたにじらふ本あつたをたがらに
あつたにじらふ本あつたをたがらに

元禄九年日裏月次社頭明友

浦のあつたにじらふ本あつたをたがらに
池のあつたにじらふ本あつたをたがらに

寛文十年海西院當座夏手所

あつたにじらふ本あつたをたがらに
あつたにじらふ本あつたをたがらに

あつたにじらふ本あつたをたがらに

あつたにじらふ本あつたをたがらに
あつたにじらふ本あつたをたがらに

あつたにじらふ本あつたをたがらに

あつたにじらふ本あつたをたがらに

あつたにじらふ本あつたをたがらに
あつたにじらふ本あつたをたがらに

寛文十二年日裏月次夏天象

あつたにじらふ本あつたをたがらに
あつたにじらふ本あつたをたがらに

延寶三年同鶴川

あつたにじらふ本あつたをたがらに
あつたにじらふ本あつたをたがらに

月乃の御守り也
 山を登りて御守り也
 夏真川に御守り也
 河波に御守り也
 天祐四年白雲寺庄満持
 の御守り也

明曆二年白雲寺庄満持
 御守り也

百首新中子治萬

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

元禄十三年院當座の當

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

瀧下當

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

天和二年院當座の當

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

元禄八年院當座の當

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

萬一

元禄十三年院當座の當
元禄十三年院當座の當

たつたあしはしるしるあしにさしき

天和三年 清西院月次 篠田社

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

九福七年 日裏月次 垣ノ瀬

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

同九年 同聖廟中法樂

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

同十年 石尾社中法樂

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

同十三年 聖茂社中法樂 南敷堂

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

あしにちいぢいあしにさしき

池上蓮

勝河田にすむる花の心は
ささげしる花の心は

朝米室

いづれもさしはくはくは
いづれもさしはくはくは

夕立

夕立の雨はくはくは
夕立の雨はくはくは

いづれもさしはくはくは

天和二年の秋月次遠く

六月の秋月次遠く
六月の秋月次遠く

貞享三年の侍所御法集十首 富屋柱

いづれもさしはくはくは
いづれもさしはくはくは

寛文八年の侍所御法集 富屋柱

いづれもさしはくはくは
いづれもさしはくはくは

天祐二年閏九月次晚易輝

伝志(下)の(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

寛文六年海西院月次身輝

山(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

中扇

秋の(木)に(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

九祿四年同(木)

を(木)の(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

寛文八年海西院月次(木)

桐の(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

反畫(木)

志(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

寛文十一年閏九月次反(木)

志(木)す(の)と(木)た(木)の(木)

夜もさびしき木々の影

納涼

梅もさびしき花もさびしき
はなもさびしき花もさびしき
すもももさびしき花もさびしき
袖もさびしき花もさびしき
しほもさびしき花もさびしき
梅もさびしき花もさびしき
さくらもさびしき花もさびしき
あけぼのもさびしき花もさびしき

元禄十一年仙洞當座納涼夜

宇の福もさびしき花もさびしき
さくらもさびしき花もさびしき

夏遠情

梅もさびしき花もさびしき
さくらもさびしき花もさびしき

夏福

梅もさびしき花もさびしき
さくらもさびしき花もさびしき

六月福

河海流
夏海流

秋

天和二年内裏當座五株

予飛鳥

あはれ

初秋

すき

け

寛文二年内裏初株

身

と

元禄十三年仙洞鶴社沖は樂新株
らるる葉はもたれはるる風はるる
株はもたれはるる風はるる

延寶三年松家石清水は法樂新株
はるる葉はもたれはるる風はるる

同法樂早秋風

是の葉はもたれはるる風はるる
はるる葉はもたれはるる風はるる

元禄十三年松家は東山早株

あつた葉はもたれはるる風はるる
はるる葉はもたれはるる風はるる

新秋雨

株はもたれはるる風はるる
秋の葉はもたれはるる風はるる
はるる葉はもたれはるる風はるる
すはるる葉はもたれはるる風はるる

延寶七年松家は法樂早秋 馬秋株せし
再興

はるる葉はもたれはるる風はるる
秋の葉はもたれはるる風はるる

海邊殊風

中化之... 演を

寛文八年家法集新枕所

ふり... 萬葉

浦田村

お... 早凍川

早凍川

お... 天和二年

天和二年家法集新枕所

お... 万治二年

万治二年家法集新枕所

お... 早凍川

明曆九年辛未年七月五日

あはれに心を込めてお祈りいたします。神代のおまつり

延寶元年早稲刈

あはれに心を込めてお祈りいたします。早稲刈の儀

寛文七年織女期

あはれに心を込めてお祈りいたします。織女期の儀

九曜七年女祝祭

あはれに心を込めてお祈りいたします。女祝祭の儀

延寶五年七夕祭

あはれに心を込めてお祈りいたします。七夕祭の儀

百治三年寅申

あはれに心を込めてお祈りいたします。寅申の儀

寛文十一年方地儀

あはれに心を込めてお祈りいたします。方地儀の儀

あふせきまゝの若松

定寶二年銀河月如舟

河子の川月はさしづめ棹と舟
是れはのちの世に

名所也

今とせらるる世に
あはれむるものも

天和三年七月

油入りの
はらけしき

白雲清首寺

妹のあはれ
をなす

元禄九年

あはれむるもの
油入りの

油入りの
あはれむるもの

月前

月入りのあはれむるもの

くひさしなむのちのちのちのち

月半ちのちのちのちのちのちのち

こむよしのちのちのちのち

元禄十三年仙洞當座茨風拂居

しんがふのちのちのちのちのち

とのちのちのちのちのち

らあふのちのちのちのちのち

らあふのちのちのちのち

用換

あふのちのちのちのちのち

あふのちのちのちのち

天和四年仙洞當座濱島換

あふのちのちのちのちのち

あふのちのちのちのち

籬下換

あふのちのちのちのちのち

あふのちのちのちのち

疾似人集

あふのちのちのちのちのち

あふのちのちのちのち

萩

平野(一)川原(一)花(一)散(一)海(一)風(一)吹(一)く

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

月下翁

平野(一)の(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

花散葉吹

花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

花上翁

平野(一)の(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

元禄十一年備前国津浦藩萩花
露中

平野(一)の(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

也(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

花上翁

平野(一)の(一)花(一)散(一)る(一)葉(一)吹(一)ぬ(一)て(一)は(一)

村の山間の森の上の山

政押赤

この山は神といふやうにありし

かゝるの森はカヤのツミ

元禄九年四月朝草花

おぼつかる木のしるはしは

そよひの山は

薄

高しにたぐひぬにこの秋も

くおのほはたすぬぬ

月前薄

山はたぐひぬにこの秋も

くおのほはたすぬぬ

刺癩膏

山はたぐひぬにこの秋も

くおのほはたすぬぬ

百治三年四月薄似油

山はたぐひぬにこの秋も

くおのほはたすぬぬ

月前草花

月とあはれもかたじけなく
あはれもかたじけなく

元禄十一年仙洞三首續行陽海

此會禱賢
年七十餘

花とあはれもかたじけなく
あはれもかたじけなく

凡動野花

あはれもかたじけなく
あはれもかたじけなく

薄似袖

百後あはれもかたじけなく

あはれもかたじけなく

凡前草花

あはれもかたじけなく
あはれもかたじけなく

荒籬蘭

あはれもかたじけなく
あはれもかたじけなく

月前草花

あはれもかたじけなく
あはれもかたじけなく

天和二年内家藤槿

此の日記は... 藤槿の日記... 天和二年...

同四年月次内家藤槿

天和四年月次... 藤槿の日記... 天和四年...

浅草露

浅草露... 天和四年... 浅草の露...

貞享五年私宅石清水社法樂河内若木
因船若木 住三木

天和二年... 藤槿の日記... 天和二年...

野落

野落... 天和二年... 野落の日記...

天和三年内家藤槿

天和三年... 藤槿の日記... 天和三年...

島忠

島忠... 天和三年... 島忠の日記...

記すは出づるは

いふは出づるは

寛文十一年日裏遠狩出

山もくは

海もくは

例出

なはらちか

貞享二年久我西園亭曉出

あはらちか

夕出

夕出

夕出

夕出

夕出

夕出

夕出

夕出

寛文七年の裏書

寛文七年の裏書

天和三年の裏書

天和三年の裏書

天和三年の裏書

天和三年の裏書

天和三年の裏書

山家出

天和三年の裏書

天和三年の裏書

離中出

天和三年の裏書

天和三年の裏書

元禄二年の裏書

元禄二年の裏書

元禄二年の裏書

元禄二年の裏書

元禄二年の裏書

同十二年出近枕

同十二年出近枕

あつたしつこふ

同輩仙洞後茂社神鏡集帳店前島

波々々々々々々々々々々々々々々々々々

後々々々々々々々々々々々々々々々々々

野鹿

あつたしつこふ

あつたしつこふ

鹿交筆記

あつたしつこふ

あつたしつこふ

あつたしつこふ

天和三年丙寅當座月前鹿

あつたしつこふ

あつたしつこふ

風前集

あつたしつこふ

あつたしつこふ

鹿交筆記

あつたしつこふ

鹿野邊

鹿野邊

鹿野邊の山は高き山なり
山頂に海は見えぬ

九瀬の洞窟

九瀬の洞窟は深き洞窟なり
洞窟の奥には石の窟あり

鹿野邊

鹿野邊の山は高き山なり
山頂に海は見えぬ

暮山鹿

夕暮の山は静かなる山なり
山の奥には鹿の窟あり

深山鹿

深山の山は静かなる山なり
山の奥には鹿の窟あり

鹿野邊

鹿野邊の山は高き山なり
山頂に海は見えぬ

九瀬の洞窟

九瀬の洞窟は深き洞窟なり
洞窟の奥には石の窟あり

つゆ先くまもゆにしゆめあふりやまふり
しゆびさふしゆびさふりやまふり

寛文十年日裏澤前坊

から先あはしゆ回のりたもあつり
あしあつりしゆ回のりたもあつり

百治三年日裏澤前坊

あつりしゆ回のりたもあつり
あつりしゆ回のりたもあつり

九保十年同日

あつりしゆ回のりたもあつり
あつりしゆ回のりたもあつり

あつりしゆ回のりたもあつり

秋の家

あつりしゆ回のりたもあつり
あつりしゆ回のりたもあつり

梅枕

あつりしゆ回のりたもあつり
あつりしゆ回のりたもあつり

元禄九年仙洞石清水土御清兼家

梅枕

あつりしゆ回のりたもあつり
あつりしゆ回のりたもあつり

後、あつた月の子は
印、あつた月の子は
い、あつた月の子は

秋田

あつた月の子は
あつた月の子は

秋田

あつた月の子は
あつた月の子は

延寶四年丙寅 狼田

鹿、あつた月の子は
あつた月の子は

寛文十二年丙寅 月

あつた月の子は
あつた月の子は

元禄七年辛酉 仙洞 住吉社 御法集

あつた月の子は
あつた月の子は

雨見月

あつた月の子は
あつた月の子は

其の如く此の如く申す事
御座り候事と申す事
此の如く申す事と申す事

陰暦月

申す事と申す事と申す事
申す事と申す事と申す事

寛文五年丙寅當座半出月

申す事と申す事と申す事
申す事と申す事と申す事

元禄元年丙午当座月

申す事と申す事と申す事
申す事と申す事と申す事

稍順月

申す事と申す事と申す事
申す事と申す事と申す事

月前号

申す事と申す事と申す事
申す事と申す事と申す事

月系号

申す事と申す事と申す事
申す事と申す事と申す事

月にさかすまの光を照らす

六月

さかすまの光を照らす
かの月を輝く世ともく

延寶元年聖廟沖江築山月明

さかすまの光を照らす
かの月を輝く世ともく

外山月

さかすまの光を照らす
かの月を輝く世ともく

下深法あるまの光を照らす
月の光を輝く世ともく

名所月

月影の光を照らす
かの月を輝く世ともく

野徑月

さかすまの光を照らす
かの月を輝く世ともく

源氏物語の詞と題と月と之の思

さかすまの光を照らす
かの月を輝く世ともく

月とあそびたむあり秋と也

寛文九年曾廟沖法樂江月次

あそびたむとたたりうらみこころいふこといふこと
酒江の月次輝さむさむさむ

明暦日幸八月十六日花鳥并一信亭

當座河月

花鳥河右にあり輝る斗のふとさむ
き物とあり月すむらん

寛文三年田家朝一の法

あそびたむ月御中と也船とさむ

あそびたむとさむさむさむさむ

舟中月

こくせれらの一津くさむさむ月次と
あそびたむと秋江川とさむ

元禄十一年洞春社法樂島度海月

あそびたむと波子とあそびたむと
月のこころあそびたむとあそびたむ

岩所月

浪花とあり包あそびたむとあそびたむ

あそびたむとあそびたむとあそびたむ

海道月

舟に鶴の影を映す海は白く
もよほす月夜は静かに
照らす

浦鶴月

波をこぎつゝ松の影を
月影にうつしつゝ一丸
の影をうつしつゝ浦に
月影をうつしつゝ白く
照らす

湖月

水鏡に月影をうつしつゝ

波はくまをうつしつゝ月影

月前松

松の影をうつしつゝ
波はくまをうつしつゝ
月影をうつしつゝ

古月

懐かしく月影をうつしつゝ
波はくまをうつしつゝ
月影をうつしつゝ

心月

寺の影をうつしつゝ
波はくまをうつしつゝ
月影をうつしつゝ
藍よりうつしつゝ

延寶四年日暮高屋改御月

法をこて村しむる秋の月をこて
あつたあつた深き月

山家月

也秋にのく思ふ秋は
さなむとせぬ月

廣田池眺む

浩然と水のうた勢すこく
あつたあつた廣田の月

と秋二年あつた中細い御那持と

又侍初はこしにあつた集落御那持

こ海河あつた御那持と
いふ

秋こつた秋はこつた月をこて
秋はこつた秋はこつた

十五日のあつた御那持

ふとあつた秋のあつたあつた
あつたあつたあつた

薬師池流海僧正坊中あつた御那持
月をこつたあつたあつた

死のまじりては、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

魚

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

天和三年後西院月次月お祈

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

月前松

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

樵客帰月

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

月生涯友

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

月僅演

あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、
あはれなるものぞ、

月前用鏡

夏はまほしきものありてあつむるもあつむるも
月をまはりにて杯をさし

延寶七年丙辰月契子秋

今世こそ世もあつむるあつむるもあつむるも
あつむるもあつむるもあつむるも

月多秋友 松尾 月十一日

すし 秋は名もあつむるあつむるもあつむるも
あつむるもあつむるもあつむるも

元禄五年丙辰月契子秋

あつむるもあつむるもあつむるもあつむるも
あつむるもあつむるもあつむるも

明月照我膝

あつむるもあつむるもあつむるもあつむるも
あつむるもあつむるもあつむるも

天和三年丙辰月契子秋

あつむるもあつむるもあつむるもあつむるも
あつむるもあつむるもあつむるも

遠嶺音

あつむるもあつむるもあつむるもあつむるも
あつむるもあつむるもあつむるも

字は音にむらりて明音

元禄十一年の裏月次梯音

吹しゝあましししあうふふ音物

あしゝあまししあうふふ音物

あしゝあまししあうふふ音物

あしゝあまししあうふふ音物

天和二年同周音

あしゝあまししあうふふ音物

あしゝあまししあうふふ音物

河上音

月とて河上音の音は胡也

若しは波を音にたると

そと物とて法にたると物

音はらする音は川也

万治二年の裏月次梯音

浪とて音にたると物

音はらする音は川也

従上音

物とて音にたると物

音はらする音は川也

元禄十三年仙洲田上藤

予らに先あるむしきりしつねに解せり
あつた田上芳枝しるす

そしつねにしるすつねに秋せり
あつた田上芳枝しるす

初鷹

あつた田上芳枝しるす
あつた田上芳枝しるす
あつた田上芳枝しるす
あつた田上芳枝しるす

延寶四年因家為屋の鷹初来

あつた田上芳枝しるす
あつた田上芳枝しるす

万治三年同當座の鷹

あつた田上芳枝しるす
あつた田上芳枝しるす

曉鷹

あつた田上芳枝しるす
あつた田上芳枝しるす

薄昔初鷹

月と花とあはれあはれと花とあはれあはれ
夕暮のせしむる鳥の鳴かぬ

天和二年内裏使の鳥

病のこころあはれあはれとあはれあはれ
かゝる鳥の鳴かぬ

同聖廟沖法樂田上鷹

梅をた田圃のあはれあはれとあはれあはれ
あはれあはれとあはれあはれ

元禄十一年仙洞鶴社法樂

猿蓑とあはれあはれとあはれあはれ
あはれあはれとあはれあはれ

田圃のあはれあはれとあはれあはれ

擣衣

そらとあはれあはれとあはれあはれ
袖のあはれあはれとあはれあはれ

あはれあはれとあはれあはれとあはれあはれ
あはれあはれとあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれとあはれあはれ
月とあはれあはれとあはれあはれ

貞享三年美濃法樂

あはれあはれとあはれあはれとあはれあはれ
あはれあはれとあはれあはれ

うすむらさきいそぎすのむらさき

元禄十三年田楽聖廟造立

りてよむいそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
まのくまのむらさきいそぎすのむらさき
そりてよむいそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき

元禄十三年田楽聖廟造立

もよもよむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき

いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき

同九年田楽聖廟造立

いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき

月前横衣

いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき

月前横衣

いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき
いそぎすのむらさきいそぎすのむらさき

遠橋衣

そりまろをせむくしてしゆをどあひり
はあいのつらあうらつらあ

延寶七年田原月次橋衣出

うづまの月のこたはさぬるは
るはらなるはあひくはあ
さぬるはあひくはあ
まはるはあひくはあ

隣橋衣

あひくはあひくはあ

あひくはあひくはあ

天和四年後西院月次侍人橋衣

あひくはあひくはあ
あひくはあひくはあ

寛文六年同當腰橋衣志

あひくはあひくはあ
あひくはあひくはあ

右所橋衣

あひくはあひくはあ
あひくはあひくはあ

曉鳴

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音
うたがひしうたがひしうたがひし

元禄七年位吉津法樂寺後堂鳴

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音
うたがひしうたがひしうたがひし

同十三年鴨社法樂寺田鳴

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音
うたがひしうたがひしうたがひし

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音

天和三年後西院馬鹿津會社鳴

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音
うたがひしうたがひしうたがひし

野分

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音
うたがひしうたがひしうたがひし

秋日

秋の夕暮に松の梢に鳴る鳥の音
うたがひしうたがひしうたがひし

貞享二年内裏朝陽會

あまの庭より朝の陽をよみありて
あらしをのうせりてはけち

元禄八年仙洞住持法樂黄菊

初し月ありて是のあはれあはれはまは
たなほこせて菊枝よみあり

山あはれとてしるせりてあはれ
るるの河のたうとまはこし

延寶三年内裏重陽菊久盛

あはれ代のおとてあはれはこし
るるの河のたうとまはこし

うらやまずる菊とわがこし

天和三年同菊祀久敏

いふ世に名うてあはれありあはれ
はとあはれやわが物とてこし

あはれはくわがこしつたつた
とこれすあめのもものあはれ

寛文七年法西院月次菊祀久盛

あはれやあはれはなれとてこし
あはれすあはれはこし

りせのうらやまずる菊とわがこし

後山あはれのさざんば

明暦四年四葉菊有新花

正徳四年甲午のさざんばのつぼみ
これ明暦の甲午のさざんば

延寶七年同葉菊新花

あはれにさざんばのつぼみ
さざんばのつぼみ
あはれにさざんばのつぼみ
あはれにさざんばのつぼみ

天和四年同葉菊新花

あはれにさざんばのつぼみ
あはれにさざんばのつぼみ

同二年伴菊延齡

あはれにさざんばのつぼみ
あはれにさざんばのつぼみ

延寶四年伴菊延齡

あはれにさざんばのつぼみ
あはれにさざんばのつぼみ

寛文八年菊契十年

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

同十二年菊香春木如

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

秋香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

萬懸松

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

天和二年内裏月次秋の木の葉

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

此のくはれはらよむ

紅葉

うもれもしらぬらち
あはれもあはれもあはれ

寛文八年後西院西の御舎

いさらあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ

元禄七年春日裏聖廟御舎

とに物とけよいしつあはれ
あはれもあはれもあはれ

寛文十年同高尾紅葉

あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ

紅葉

あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ
あはれもあはれもあはれ

寛文、年、後、西院、月次、林、紅葉

長久保山にありては、
夕日さすに、あゝ紅葉の

庭、紅葉

と、落く、紅、さし、み、に、
秋、あゝ、せ、し、さ、さ、さ

松、岡、紅葉

あゝ、さ、さ、さ、さ、さ、
き、ら、り、と、あ、ら、り、と

水、郷、紅葉

水郷の紅葉、さ、さ、さ、
あ、ら、り、と、さ、さ、さ

元禄九年、仙洞、信吉、沖法、葉、紅葉、誰、家

あ、ら、り、と、さ、さ、さ、
あ、ら、り、と、さ、さ、さ

天和四年、後西院、月次、林、紅葉

あ、ら、り、と、さ、さ、さ、
あ、ら、り、と、さ、さ、さ

折、紅葉

あ、ら、り、と、さ、さ、さ、
あ、ら、り、と、さ、さ、さ

子とらにちるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

新田よりくるる枝はかすちか

おぼつかいひのこころをいふに
おのれが心はなつかしく
いふに
おのれが心はなつかしく
いふに

書状

おぼつかいひのこころをいふに
おのれが心はなつかしく
いふに

寛文九年 後西院 南無阿弥陀仏

おぼつかいひのこころをいふに
おのれが心はなつかしく
いふに

九月書

おぼつかいひのこころをいふに
おのれが心はなつかしく
いふに

冬

初冬曉

雪はくもをたれきにはりあをぢりる
烟のまはれと云ふるに

初冬雨

冬も思ふは海にやわにの夢
うら物まはれらぬ

元和二年後西院常陸守

とてしるすはあまの
うらまはれ冬はまはり

初冬朔

梅の香もくさくさ雪もふりぬるもさくさく
さきくさくさくさくさくさくさくさく

初冬朔

時とてあつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち

元禄十一年仙洞石清水社御法集初冬朔

冬とてあつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち

あつちとてあつちとてあつちとてあつち

あつちとてあつちとてあつちとてあつち

あつちとてあつちとてあつちとてあつち

時雨

あつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち

寛文九年田舎月次

あつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち

あつちとてあつちとてあつちとてあつち
あつちとてあつちとてあつちとてあつち

ヲわらふや今志と致らる
ちりちりあふふふふふ
まのりくにわすれぬ

夕陽也

かきつらふくはらふくはらふ
くらふくらふはらふはらふ

寛文七年後西院月次
初とせむしに夕陽也

初とせむしに夕陽也

かきつらふくはらふくはらふ
くらふくらふはらふはらふ

寛文七年後西院月次

くらふくらふはらふはらふ
くらふくらふはらふはらふ

同年尚且言ふ遠郷也

かきつらふくはらふくはらふ
くらふくらふはらふはらふ

同二年内裏月次延徳也

かきつらふくはらふくはらふ
くらふくらふはらふはらふ

寛文七年後西院尚且言ふ

とや物くうくうくうくうくうくうく
こよこよこよこよこよこよこよこよ

元禄十一年仙洞高座落葉記

不す所よりくうくうくうくうくうく
あーあーあーあーあーあーあーあーあ

貞享三年内裏内侍所御屋敷落葉記

清らくくくくくくくくくくくくく
落葉あそびくくくくくくくくく

夕落葉

夜の西よりくうくうくうくうくうく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

寛文八年後西院月次冬也

菊もあそびくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

同十三年内裏月次冬澤落

日くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

冬月

新のうら...
りう...
りう...
りう...

冬夏

か...
か...
か...

昭曆二年聖廟神位系朝痛

百...
い...
い...

雨庭痛

之...
之...
之...

流...

草霜

う...
う...
う...

冬野風

を...
を...
を...

この二年因襲寒多事

悔...
悔...
悔...

風まらしむるやあはれなるあまのこ
道とてふらんやうらやうらとて
冬にわたりあはれなるあまのこ
らあはれなるあまのこ

寛文十年の裏枯席

あはれなるあまのこ
あはれなるあまのこ

枯席曙

身にやまはれなるあまのこ
冬席のあまのこ

元禄十二年の裏聖廟法宗木枯

あはれなるあまのこ
あはれなるあまのこ
あはれなるあまのこ
あはれなるあまのこ

寒樹文松

あはれなるあまのこ
あはれなるあまのこ

元禄九年仙洞石清水社法樂寒ね和

あつたにまらうらまはうらまはうらまは
あつたのまらうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

寛文九年田楽月次寒ね和

あつたにまらうらまはうらまはうらまは
あつたのまらうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

池水結

あつたにまらうらまはうらまは

池水結

あつたにまらうらまはうらまはうらまは
あつたのまらうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

天和三年田楽池水結和

あつたにまらうらまはうらまはうらまは
あつたのまらうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

同日年の池水結和

あつたにまらうらまはうらまはうらまは
あつたのまらうらまはうらまは
うらまはうらまはうらまはうらまは

瀧氷

瀧氷の流るるもまた水は流るるも
いかにいかにいかにいかにいかに

寛文二年四月庚辰

あつた川あつた川あつた川あつた川
あつた川あつた川あつた川あつた川

寛文十年水路氷

舟のつらさのつらさのつらさのつらさ
舟のつらさのつらさのつらさのつらさ

田氷

田氷のつらさのつらさのつらさのつらさ
田氷のつらさのつらさのつらさのつらさ

冬曉

冬曉のつらさのつらさのつらさのつらさ
冬曉のつらさのつらさのつらさのつらさ

寛文六年四月庚辰

同六年四月庚辰のつらさのつらさのつらさ
同六年四月庚辰のつらさのつらさのつらさ

同六年四月庚辰

同六年四月庚辰のつらさのつらさのつらさ
同六年四月庚辰のつらさのつらさのつらさ

月と鳥のたこいしあかん

冬夜月

冬夜月と鳥のたこいしあかん
月と鳥のたこいしあかん

延寶五年白雲月次寒夜月

白雲月次寒夜月
鳥のたこいしあかん
鳥のたこいしあかん
鳥のたこいしあかん
鳥のたこいしあかん

天和二年山寒月

天和二年山寒月
鳥のたこいしあかん

食

食
鳥のたこいしあかん

貞享三年内侍所御宗千鳥

貞享三年内侍所御宗千鳥
鳥のたこいしあかん

同年月次曉千鳥

同年月次曉千鳥
鳥のたこいしあかん

波のうねりもゆるぎなく

貞享二年閏五月庚子島

夏はあつたが六月は涼しく

波のうねりもゆるぎなく

浦十島

子にうねりもゆるぎなく

友はあつたが六月は涼しく

島十島

可にうねりもゆるぎなく

可にうねりもゆるぎなく

花舞の年閏五月庚子島

いかにうねりもゆるぎなく

いかにうねりもゆるぎなく

島十島

波のうねりもゆるぎなく

波のうねりもゆるぎなく

波のうねりもゆるぎなく

波のうねりもゆるぎなく

波のうねりもゆるぎなく

波のうねりもゆるぎなく

夜霰

ゆき泥ちる御ふりあしりら
ふちこのましくあへあは
まにゆきほもくくあは
月ひししりらあは

延寶五年内裏高座野霰

しりらあはあはあはあは
のまはれのまはあは
あはあはあはあはあは
共回路のまはあはあは

国上霰

あはあはあはあはあは
あはあはあはあはあは

元禄十一年内裏月次寝覚霰

あはあはあはあはあは
あはあはあはあはあは
あはあはあはあはあは

寛文二年法西院高座冬夕

鐘のまはあはあはあは

ふのくちろくはるきふ

明暦元年日裏書當座書野法書

日午物るら後ららく(半)らるる
路らあらちのよらるら

延宝五年日裏月次法書

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

朝書

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

元禄十二年日裏書野法書

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

寛文五年後西院月次法書

あらあまら月ああらら
河物らららと期らら

天和三年後西院當座楨言

津丹月ふらふとて思ふも
信ふらふも
心もたふらふとて思ふも

寄埋山路

すこやうにちかふらふ果は
あつた
あつた

元禄十年仙洞石清水社御法樂馬上言

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

依寄侍人

とねいしものうらまは
あつたあつたあつたあつた

貞享三年内侍所法樂寄中侍人

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

寄胡蝶言

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

元禄十三年所社法樂高申待法

うー今年に於ては千九百の御座り候
御座り候御座り候御座り候
うらゝの御座り候御座り候御座り候
おのゝ御座り候御座り候御座り候

天和二年内裏月次高申候御座り候

千九百の御座り候御座り候御座り候
八の御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候

延寶五年内裏將場霽

千九百の御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候

寛文十年同將場風

千九百の御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候

元禄十一年内裏月次

千九百の御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候
御座り候御座り候御座り候御座り候

鷹將

ともしきりぬき物とていへりてはるるはるる
く西のどくく語味のふりも
若狭あへらちのくくもくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

夕鷹行

くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

元禄二年信州法華僧侶訓談電

くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

炭竈

くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

埋火

くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

天和三年内表月次爐火

くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

惠

天和三年丙辰馬年正月

津和野の御所にて
御座り候御時
御座り候御時

御座り候御時

目下御座り候御時
御座り候御時
御座り候御時
御座り候御時
御座り候御時

元禄二年丙辰馬年正月

はらの花ゆけりしゆん

慈久恋

とくゆめあはれ
人さかす
ま
い

寄跡恋

人さかす
ら

寛文二年 活西院月次 坊慈久

あはれ
油

寄瀧恋

も
あ
早

明暦四年 内表月次 寄山恋

う
比
右

延寶三子内書月次寄石云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

九條寺(仙洞富座)初言出云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

延寶三子内書月次寄石云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

天和四年後西院月次言出云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

延寶三子内書月次寄石云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

天和四年同聖廟法某傳聞云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

見云

あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも
あはれなる御書の中にも

新
年
の
あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

同業同石清水社清法薬酒書

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

同業同石清水社清法薬酒書

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

同業同石清水社清法薬酒書

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

同業同石清水社清法薬酒書

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

同業同石清水社清法薬酒書

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

あ
げ
ま
り
の
あ
げ
ま
り

天和三年松尾法皇祈願蓮花

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ
のうききいほのちゆり

元禄十一年内裏聖廟法皇祈願蓮花

このうききいほのちゆり
あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ
このうききいほのちゆり

同十一年内裏月次寄水恋

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ
このうききいほのちゆり

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ

同十一年仙洞富盛

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ
このうききいほのちゆり

貞享三年内裏内侍所法皇祈願蓮花

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ
このうききいほのちゆり

寄願蓮花

あはれはの川あはれもしこもえんきうの如くこ
このうききいほのちゆり

寄糸志

予のふりかへしむるはなほなほ
しむるはなほなほなほなほ
くはなほなほなほなほなほ
しむるはなほなほなほなほ
延慶二年日暮水無瀬高野末寄糸志
うもすはなほなほなほなほ
めはなほなほなほなほなほ
寛文四年後西院住吉社沖奉納五十首
續糸志

一はなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほ

天和二年後西院月次不逢志

なほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほ

寄糸志

なほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほ

寄山志

なほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほ

天正十一年の事

寛文元年後西院月次書

寛文元年後西院月次書
寛文元年後西院月次書

経年志

寛文元年後西院月次書
寛文元年後西院月次書

寛文十一年内裏書

寛文十一年内裏書
寛文十一年内裏書

天正二年同當座書

天正二年同當座書
天正二年同當座書

天正四年聖廟書

天正四年聖廟書
天正四年聖廟書

書

書
書

書

かゝる見とくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

寄江忠

新波にみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

寛文三年貞敷親王御想御進寄海忠

幅のこゝろにみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

大徳三年同月次あまのこゝろに

付のこゝろにみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

あまのこゝろにみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

寛文十年同月次寄演忠

あまのこゝろにみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

延寶三年同寄車忠

あまのこゝろにみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

寄掉忠

あまのこゝろにみえはつとくはあまのこゝろに
あはれとていふはあまのこゝろに

くちくち内裏月夜寄

くちくち内裏月夜寄

くちくち内裏月夜寄

元禄七事同寄

くちくち内裏月夜寄

くちくち内裏月夜寄

延寶八事同寄

くちくち内裏月夜寄

くちくち内裏月夜寄

寄淡志

子別名

くちくち内裏月夜寄

寛文十三事聖廟

くちくち内裏月夜寄

くちくち内裏月夜寄

貞享二事内裏

くちくち内裏月夜寄

くちくち内裏月夜寄

寛文九事同寄

くちくち内裏月夜寄

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは

同 子 院 月 次 詩 又 也

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

寄 月 也

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

元 禄 十 年 山 洞 春 也

あはれなるはなをよみしは

~~~~~

### 寄枕

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

### 寄风

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

寄

~~~~~

~~~~~

寄西

~~~~~

~~~~~

寄

~~~~~

~~~~~

~~~~~

寄食之

~~~~~

元禄十二年仙洞易月寄鐘志

~~~~~

同上廿一月内要月次書志

~~~~~

貞享三年一月同留仙洞書志

~~~~~

寄食之

~~~~~

寄食之

~~~~~

春逢多志



梅もさくさく可なり

普渡書

何れと云ふも此の世に  
ありては

蓮花

蓮花もさくさく可なり  
蓮花もさくさく可なり  
蓮花もさくさく可なり  
蓮花もさくさく可なり

慈蓮花

慈蓮花もさくさく可なり  
慈蓮花もさくさく可なり  
慈蓮花もさくさく可なり  
慈蓮花もさくさく可なり

俄蓮花

俄蓮花もさくさく可なり  
俄蓮花もさくさく可なり  
俄蓮花もさくさく可なり  
俄蓮花もさくさく可なり

佛蓮花

佛蓮花もさくさく可なり  
佛蓮花もさくさく可なり  
佛蓮花もさくさく可なり  
佛蓮花もさくさく可なり

うたへこらぬ中絶せり

寄長巻

わが心もまじりてあはれなる

我の心もまじりてあはれなる

あはれなる心もまじりてあはれなる

あはれなる心もまじりてあはれなる

源氏物語の詞と題する

あはれなる心もまじりてあはれなる

あはれなる心もまじりてあはれなる

寛文十一年内裏聖廟法皇陛下

あはれなる心もまじりてあはれなる

あはれなる心もまじりてあはれなる

源氏物語

あはれなる心もまじりてあはれなる

あはれなる心もまじりてあはれなる

源氏物語

あはれなる心もまじりてあはれなる

あはれなる心もまじりてあはれなる

貞享三年内裏聖廟法皇陛下

あはれなる心もまじりてあはれなる

此は梅のつぼみ

明勝の筆の表は奇馬

花のつぼみ

つぼみ

同二詩の梅のつぼみ

つぼみ

つぼみ

貞享二年の梅

つぼみ

つぼみ

つぼみ

つぼみ

欲別

つぼみ

つぼみ

油

つぼみ

つぼみ

着申別

つぼみ



寛文八年内裏聖訓書末秘知音

あはれかきしゆとあはれゆき  
あはれあはれしゆとあはれゆき

寄歌

又と我ははるあまのたよ  
しるしりくははるあまのたよ

別増

あはれかきしゆとあはれゆき  
あはれあはれしゆとあはれゆき

寄歌

あはれかきしゆとあはれゆき  
あはれあはれしゆとあはれゆき

梅の香はあはれゆき

元禄十二年の御書

あはれかきしゆとあはれゆき  
あはれあはれしゆとあはれゆき

あはれかきしゆとあはれゆき

貞享二年の御書

あはれかきしゆとあはれゆき  
あはれあはれしゆとあはれゆき

あはれかきしゆとあはれゆき

あはれかきしゆとあはれゆき  
あはれあはれしゆとあはれゆき

あはれかきしゆとあはれゆき

元禄二年同月次依清顯公

あはれなることごとく月日付しことごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく

顯後梅香

あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく

元禄二年同月次依清顯公

あはれなることごとくあはれなることごとく

同十二年同水無御事此は元禄二年

あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく

秋意

あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく

秋意

あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく  
あはれなることごとくあはれなることごとく



寛文十年八月廿一日  
寛文十年八月廿一日

寛文十年内裏目次寄款書

寛文十年内裏目次寄款書

貞享二年竹内三位亭高屋寄款書

寛文十年内裏目次寄款書

寛文十年内裏目次寄款書

寛文十年内裏目次寄款書

寛文十年内裏目次寄款書

遠書

寛文十年内裏目次寄款書









人傳恨也

~~~~~

寄思也

~~~~~

披書恨也

~~~~~

寄第也

~~~~~

寛永十年内表高屋恨又也

~~~~~

元禄七年心洞恨絶也

~~~~~

牛根絶也

~~~~~


雜

寛文十二年四月表月次天象

丙午廿一日のちのちとつら
いりといふにいつ月日と

延寶二年同月次多

らねくらりてのちのちとつら
いりといふにいつ月日と

寛文十年同覧

花とねあつらひとあけぬ有明
つらねのちのちとつら

天和元年正月... 延寶六年同月次右新市
河... 大... 所... 元禄十二年同聖廟御法樂^雜昔野川
... 出湯の... 元禄十二年同聖廟御法樂昔野川
... 河... 大... 所... 元禄十二年同聖廟御法樂昔野川

天和元年正月表月次若昔

今... 元禄...

元禄元年仙洞當座

... 若昔...

天和三年法西院月次忘前裁行

... 若昔...

木

秋の柳の杖（よ）の松（の）

明曆辛酉製水瀨宮御法樂嶺松

あの子の松の松（の）

嶺上松

松の松の松（の）

松の松の松（の）

寛文九年西院高座右去年久

松の松の松（の）

松の松の松（の）

浦松

松の松の松（の）

松の松の松（の）

天和元年西院高座右所（今日定家所像）

松の松の松（の）

松の松の松（の）

同三年西院高座杜柏

松の松の松（の）

松の松の松（の）

貞享二年十月内表為龍洞楨

西宮くもあふくまの谷のふかき山に
こゝろと木物もほのぼの

音林鳥初

夕の頃、あふくまの谷のふかき山に
こゝろと木物もほのぼの

海鳥見鶴

こゝろと木物もほのぼの
入のふつとまきとるまき

鶴立洲

夕の頃、あふくまの谷のふかき山に
こゝろと木物もほのぼの

葦間鶴

あふくまの谷のふかき山に
こゝろと木物もほのぼの

寛文六年海西院當座南鶴

あふくまの谷のふかき山に
こゝろと木物もほのぼの

独吟あふくまの谷

あふくまの谷のふかき山に
こゝろと木物もほのぼの

天竺の雀活西院月次遠村鶴

天竺の雀活西院月次遠村鶴

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

後境鶴

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

寛永十年内裏月次鶴

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

白鷺五洲

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

白鷺五洲

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

寛永十年内裏月次鶴

鳥の鳴き声はさかしくはなれり

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

山家古松

山家古松の松と友と
山家古松の松と友と

とみ入の谷の尾はくち他がくち
とみ入の谷の尾はくち他がくち

山家秋夜

いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ

秋山家

いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ

山家燈

いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ

元禄九年内裏水鏡宮御法楽山館雨

いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ

同章仙洞管絃社法楽我わがわ

いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ
いもね母のくちあつてはくちへ

あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき

貞享三年得所江蘇田家

あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき

元禄十二年得所江蘇田家

あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき

雨店木

あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき

雨店燈

あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき

雨中燈

あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき
あつちのうららき

雨夜燈

世にくく月とて下はあはれとて
つとてあはれとて下はあはれとて

曉津燈

あはれとて月とて下はあはれとて
あはれとて月とて下はあはれとて

寛文五年閏八月書

あはれとて月とて下はあはれとて
あはれとて月とて下はあはれとて

天和二年同聖廟遊樂筆

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あはれとて月とて下はあはれとて

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに

あつらひのこころをいふに好むは心ゆくか
後海とたつたる小蝶やちから舟

世に景の中石山訪日の様子

ふりかたの波もうらまひ月
ふかふかの波もうらまひ月

竹中権の續年

ふりかたの波もうらまひ月
ふかふかの波もうらまひ月

竹中権の續年

道一がこころをいふに好むは心ゆくか

本め代ゆいふはのやい

ふりかたの波もうらまひ月

ふりかたの波もうらまひ月
ふりかたの波もうらまひ月

一泊と奉同聖廟に法樂釣漁火

ふりかたの波もうらまひ月
ふりかたの波もうらまひ月

竹中権の續年

月、後海とたつたる小蝶やちから舟
ふりかたの波もうらまひ月

旅

波中舟遊し落し舟に乗りて海に旅の
舟に乗りて海に旅の

貞享三年丙辰當座の書 秋旅

昔の舟に乗りて海に旅の
舟に乗りて海に旅の

旅行

舟に乗りて海に旅の
舟に乗りて海に旅の

貞享三年丙辰月次朝雲出馬録

舟に乗りて海に旅の
舟に乗りて海に旅の

旅行

舟に乗りて海に旅の
舟に乗りて海に旅の

舟月旅行

舟に乗りて海に旅の
舟に乗りて海に旅の

秋新旅

夏草花の落しとてしらべの風
月もさびしき舟の舟

月前旅

夏草花の落しとてしらべの風
月もさびしき舟の舟

貞享三年内侍所法樂 播後

ふはらけしき舟の舟
あはれしき舟の舟

郵旅

月もさびしき舟の舟
あはれしき舟の舟

旅病鶴

月もさびしき舟の舟
あはれしき舟の舟

月前旅荷

月もさびしき舟の舟
あはれしき舟の舟

延寶四年内裏月次海路

あはれしき舟の舟
あはれしき舟の舟

天和二年後西院月次朝海路

寛文十一年南東下向の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

御出立の御出立の御出立

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive writing.

述懷

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. It includes a prominent vertical line of text on the right side, possibly a signature or a specific section header, and several lines of cursive text below it.

あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜

延寶三年西院會始筆写人心

あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜

心静延壽

あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜

愛喜依人

あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜

延寶三年西院會始筆写人心

あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜
あま〜〜のあま〜〜

飯

あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

道智院増正百首
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

永井と
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

大和二年の表當座曉懷舊

あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

逐日懷舊

あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

天和二年の表當座左清懷心

あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに
あはれなるに

をいふことと云ふことと云ふこと

元禄十年四月某日次寄舟懐四

人いふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふこと

法事如夢

今いふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふこと

貞享三年丙寅内侍所治末後

いふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふこと

元禄後

いふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふこと

元禄九年四月某日次寄舟懐四

いふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふこと

長湯

いふことと云ふことと云ふこと

いふことと云ふことと云ふこと

寛文十年四月某日次寄舟懐四

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or reference.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

はら申にのりあしやう
現世安穩

子あつてはまのりあしやう
あつてはまのりあしやう

百治二年法華院七回在龍園所

ふらうにせつはね紫のうら
ふらうにせつはね紫のうら

各遷奉止

ふのりあしやうにせつはね紫のうら
ふのりあしやうにせつはね紫のうら

便得離欲

あつてはまのりあしやうにせつはね紫のうら
あつてはまのりあしやうにせつはね紫のうら

願母放我等出家法門

あつてはまのりあしやうにせつはね紫のうら
あつてはまのりあしやうにせつはね紫のうら

皆是普賢威神之力

あつてはまのりあしやうにせつはね紫のうら
あつてはまのりあしやうにせつはね紫のうら

寛文五年法華院七回在龍園所

あ
か
た
し
く
あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

延寶五年同二十回見請障外事

あ
や
ろ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

同八年石清水社法宗社頭水家書

石清水家書
あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

百治二年望月家法宗社頭水

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

寛文七年同法宗社頭水

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

延寶二年同法宗社頭水廻祈朝臣
當春元服

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

天和三年三月十日表石清水社御

法宗今日臨時祭社頭水

あ
ら
ま
り
の
し
ら
べ
の
し
ら
べ

長月江の...の...

同四年月初卯法樂社頭柳

胃...の...の...

さ...の...の...

貞享七年同法樂社頭祝

ゆ...の...の...

さ...の...の...

元禄十年月初卯法樂社頭祝

は...の...の...

も...の...の...

明曆四年二月初卯法樂社頭祝

ら...の...の...

他...の...の...

寛文十三年同法樂社頭祝

や...の...の...

他...の...の...

貞享二年同法樂社頭祝

此...の...の...

お...の...の...

延寶七年二月初卯法樂社頭祝

水清石流の神事

元禄十三年御酒樂寄神祝

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

社頭祝

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

日吉

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

元禄十三年御酒樂寄神祝

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

同日御酒樂寄神祝

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

社頭神

御酒樂寄神祝の御酒樂寄神祝

延寶五年内裏會始春況言

遊へてまゝのめくもやわしむる
うし柳の園栖と高き會らじ

寛文七年同會始松也春久

所柳もまじりやふ人々も
あそびしものほおひもぬ

延寶四年後西院會始伴松葉久

とらぬち河やまゐる河のしら
まゝゆらじしゆせもさうり

あゝ人まゝのまゝ松あり友

あしとひまおとたれと屋やうま
あせと物あそびるはり

元禄七年内裏會始松也松葉久

内裏會始松也松葉久

あせの秋をねもくけらも
させしとけりあはるらむ

天和元年内裏會始松有佳也諒嗣

あそびしものほおひもぬ
とけりのまゝとまじり

天和三年内裏會始椿葉久
二月有
立太子事

あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね

元禄十一年洞姫日記

あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね

延寶五年後水尾院法皇御実出幸

あつねとあつねのあつねのあつね

あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね

あつねとあつねのあつねのあつね

あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね

延寶五年後西院法皇御実出幸

あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね

貞享三年内裏法皇御実出幸

あつねとあつねのあつねのあつね
あつねとあつねのあつねのあつね

同二年同日始世治文章興

世に... 波耳
こころを...
...
...
...

秋況

...
...
...

寄道況

...
...
...

...
...
...

...
...
...

元禄七年... 七十...

...
...
...

...
...
...

元禄八年東園入道...
...
...

屏風歌

百千母子也のたよや七十一

やまもろくもあはれいふ

同十三年中七十筆大御言廻行の抄

御言に寄歳祝

七十歳年物のまゝおれりやま

ふらふらつやちちのまじり

杖前

杖年いふはらうむあやう

くろくをのらふむむむ

あし短らやもて杖のまじり

くろくをのらふむむむ

はらふむむむむむむむ

あし短らやもて杖のまじり

はらふむむむむむむむ

あし短らやもて杖のまじり

七旬華且月 南極爛儲精 輓々蒲輪輓

欣々槐木栄 歳霜高氣節 藝圃擅歌名

仁者元惟壽 何与羨老彭

和韵



